

# 福祉環境委員会記録

令和5年8月3日（木）  
9時57分～11時55分  
全員協議会室

【委員】小川委員長、村木副委員長、  
村武委員、柳楽委員、岡本委員、川神委員

【議長・委員外議員】笹田議長

【執行部】

〔健康福祉部〕猪木迫健康福祉部長、椋木健康医療対策課長、  
河上健康医療対策課地域医療担当課長（新型コロナウイルスワクチン対策室長）、  
松山子ども・子育て支援課長

〔市民生活部〕井上市民生活部長、斗光環境課カーボンニュートラル推進室長

【事務局】久保田書記

---

## 議題

### 1 執行部報告事項

- (1) 令和4年度浜田市国民健康保険診療所の診療状況について【健康医療対策課】
- (2) 新型コロナウイルスワクチン接種について  
【新型コロナウイルスワクチン対策室】
- (3) 放課後児童クラブの民間委託について（弥栄小学校やさか児童クラブ）  
【子ども・子育て支援課】
- (4) 浜田漁港高度衛生管理型7号荷さばき所への再生可能エネルギー導入事業の  
進捗状況について【環境課カーボンニュートラル推進室】
- (5) その他

### 2 その他

- (1) 議会広報広聴委員会からのお知らせ
- (2) 【要望書】物価高騰に対する高齢者福祉・介護施設等への支援について  
（委員会に配布）

- 3 行政視察を終えて（委員間で協議）
  - (1) 委員派遣報告書の作成について
  - (2) 行政視察レポートの作成について
  
- 4 【取組課題】 就労支援を含めた障がい者支援について（委員間で協議）

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[ 9 時 57 分 開議 ]

○小川委員長

ただいまから福祉環境委員会を開会する。出席委員は6名で定足数に達している。それではレジュメに沿って進めていく。

1 執行部報告事項

(1) 令和4年度浜田市国民健康保険診療所の診療状況について

○小川委員長

執行部から補足説明はあるか。

○地域医療担当課長

資料を見てほしい。補足説明として、これまでの委員会で報告してきたとおり、4年度は大麻診療所において医師の退職により、6月から診療回数に変更となっている。また波佐診療所小国出張所は休止としている。患者数、診療収入運営補助金の推移については表のとおりである。

○小川委員長

委員から質疑はあるか。

○柳楽委員

大麻診療所が医師退職により、土曜は第2、第4の午後のみとなっている。これまでの利用者から困っているといった声はないか。

○地域医療担当課長

大麻診療所の診療日が減ったことは地域に対して申し訳なく思っているが、退職される先生がしっかり患者の気持ちに寄り添って、紹介状等も適切に書いて紹介しておられるようで、特にその後困ったといった苦情はないと聞いている。また今は開業医の先生が助けてくれているのだが、その先生も休むことなく月2回はしっかり診療してくれているので、今のところは特に大きなトラブルはない。

○柳楽委員

開業医の先生が携わってくれているが、これがずっと継続してもらえる見込みがあるのか。

○地域医療担当課長

まだ来年度の相談はしていないが、できれば来年度、市の国保診療所の医師を何とか充足させたいと思って今動いているので、そちらをまず何とか充足したら、今までどおり大麻診療所ももう少しいろいろできると思う。もしそれでも難しいようなら、またお願いに上がらないといけないと思うが、今のところは来年度のことはまだ白紙状態であるが、今の日数をこれ以上減らすことは考えてない。

○岡本委員

波佐にもコロナに対応できるような施設をとという要望があるなど、いろいろな声を

聞いてきた。市の診療所はコロナにどのような対応をされているか、それについてどう評価しているか。

**○地域医療担当課長**

国保診療所もほかの開業医の先生方と同じように、国から支給があれば同じように配分というか、支援している状況なので、国保診療所だから特にとすることは担当課としてはしてないが、先生方が、地域住民が困ったり不安になったりしないよう、隔離外来の部屋を設けるといった工夫をしながら、安定した医療をやっていたのではと思っている。ただ、患者数についてはやはりへき地で、高齢者が多いので、受診控えがあって患者数が昨年度に比べて減っているのではと思っている。

**○岡本委員**

私のかかりつけ医の場合、コロナの疑いがある場合は車中待機をお願いして看護師がそこへ行き、いろいろな検査をして対応されている。今の話では診療所でもそのような対応をされたということは波佐のように、大改造して待合室を整備しなくても対応ができたのだろうか。

**○健康福祉部長**

昨年度のコロナがまだ2類の頃、波佐診療所は狭くてコロナ対応の受付箇所がないということで、波佐診療所内を改装して受付箇所を作って、別枠でできるようにした。また旭も、入り口が一緒になっていたということで入り口を直して、各診療所もコロナ患者と一般患者が一緒にならないよう診療所を修繕・改修して対応している。

また波佐は、玄関、入り口の待合いも高齢者向けではなかったため、そこはまだ改修する予定にしている。今後も、コロナが5類に変わったがなくなったわけではないので、その対応は診療所でしっかりやっている。

また、波佐診療所も旭診療所も弥栄診療所も検査はやっていたので、その対応についてはしっかりやっていきたい。

**○村木副委員長**

地域井戸端会で出た質問なのだが、国保診療所のことではないと思うが国保診療所においては全てのみめネットでの連携はしていると思って良いか。

**○地域医療担当課長**

はい、そのとおりである。

**○村武委員**

私が議員になってから人口も減少しているので仕方がないことかもしれないが、こういった診療所の診療日が減少していると思う。今回こうして患者数推移や診療に係る収入額の推移などを上げてもらっているが、先ほど来年度の見通しはまだないと言われたが、今後どのような状態になったら診療日を減らしていくといった基準のようなもの、考えがあれば聞かせてほしい。

**○地域医療担当課長**

診療所の医師と我々行政とで、月2回はオンライン会議をしたり、定期的に副市長とも会議したりして、今後に向けてはいろいろ検討しているが、まずは医師が充足し

ないことにはどうにもならないところがあるので、何とか医師確保して今後も安心して皆が医療にかかれる状況になるようにしていきたいと思うが、具体的に開設日の増減といったところまで議論は至ってない。

#### ○村武委員

先日地域井戸端会で波佐まちづくりセンターに伺った際、波佐診療所は存続してほしいという強い意見をいただいた。買い物などはほかの方にお問い合わせすることもできるが、受診は人に頼めないのですごく心配されていた。そのことを伝えておく。

#### ○川神委員

国保診療所の存在価値は年々高まっているのは当然だし、そういう評価も同感である。何とかこれを安定していくことが周辺地域医療の安定につながっている。どのような感じになればこの施設がどうなるかという問題もそうだが、もっと大まかなところで、新年度に総合医を新しくつくっていこうということで新規事業を、浜田市も、予算付けもしていて、学生を呼んできたり、いずれは国保診療所に入ってもらえるような医師を、これは今の問題ではないがそういう取組を懸命にされていると思うが、実施状況、そのあたりがうまくいってくるとおそらく今後こういった国保診療所に対しての人的補助が安定してくるかと思うが、様子を伺いたい。

#### ○地域医療担当課長

今年度は総合医を何とか育成しようという形で予算計上している。現在のところ、あまり具体的には話せないが、近々浜田の医療に興味がある医師、もちろん総合医の医師に浜田へ視察に来ていただくことになっている。今いる先生方がその方に説明されて、浜田に来てくれと呼び掛けされるのではないかと思う。国保診療所だけで完結するのではなく医療センターと連携を取って、医療センター内にも総合診療科があるので、そちらと連携して、国保だけで総合医を育てるのではなく医療センターと一緒に育てる、または呼び込む形で今やっている。

学生に対しても、今は初期研修が終わった学生に対して後期研修は総合医コースを取らないかということで先生が一生懸命アプローチされるなどしている。予算についてはそういうことに目を向けてもらえるよう、浜田の国保診療所で合宿したいという学生に対して補助を付けたりする形で、今年度の予算を執行中である。今日明日に結果が出るものではないが、長い目で見て総合医を目指す学生、そして総合医になって浜田に帰ってきてくれる医師を、将来を見据えて育てていけたらと思っている。

#### ○岡本委員

最近、看護師が訪問する形で、その施設ができています。そういう看護師のグループと、今浜田市がこの診療所を運営しているが、この辺の連携はあるのか。

#### ○地域医療担当課長

訪問看護ステーションのことだと思うが、診療所においてはそれぞれの管轄にそういうステーションがあれば、それも含めて統括的に定期会議等を開いて連携を図っていると聞いている。

#### ○岡本委員

今後、診療所運営が難しくなったとき、そういう人たちのサポートをもって地域医療を守るようなことになるのかと思う。そういう方向を持っているのか、担当課としてそういう意識はあるか。

○地域医療担当課長

医療資源、看護資源は限られているので、それを有効に使っていかないといけないと思っている。それは医師も考えており、やはり6月定例会議の一般質問でもいただいたように、リモートなどいろいろな提案をいただいたので、それら提案は全て診療所の医師にも伝えている。今後は訪問医療が増えると考えているので、限られた資源を有効活用してうまくやっていけたらと思っている。

○小川委員長

ほかに質疑はあるか。

(2) 新型コロナウイルスワクチン接種について

○小川委員長

執行部から補足説明はあるか。

○新型コロナウイルスワクチン対策室長

今日現在の新たな情報をお伝えしたい。昨日国の分科会が行われた。接種開始日については9月からと大まかな予定だったのだが、昨日の分科会において中旬以降が望ましいのではないかという意見があったことを今朝確認した。

また、県から各市町へ、秋開始接種用のX B B型ワクチン配送第1便が、9月第2週後半、すなわち7日から8日あたりになるのではないかと連絡があった。どちらにしてもその後に各医療機関に個別配送という手順になるので、国が言うように9月中旬以降が接種開始日になるのではないかと想定している。最初に配給されるワクチン量は限られていると思われるので、9月中に一気に接種ができるような潤沢な体制をつくるのは困難だと考えている。資料にあること、また今私から説明した以外については、まだ何も正式な発表はない。9日に再度分科会が行われるので、それをもってある程度の方が決定して、詳細については10日に行われる国からの説明会において明確な回答があるのではないかと我々も願っている。

いずれにせよ医療機関に最後の砦となっていただくことになるので、しっかり連携を図って市民に混乱を招かないよう実施に向けて準備したい。

○小川委員長

委員から質疑はあるか。

( 「なし」という声あり )

○村武委員

コロナ関連で少し聞きたい。先日島根県知事からもメディア発表があったが、浜田市でも大変流行しているのではないかと感じている。医療機関の先生方からもそういった意見を聞く。現在の浜田のコロナ患者数、正確な数字は出てこないのだろうが、状況について伺えたらと思う。

**○健康医療対策課長**

5類に移行したので、村武委員の言われるように全数把握はできない状況になっている。ただ、定点把握は行っており、5月6月は低い水準で横ばいになっていたが、7月に入って増加が続いている。直近の定点把握によると、先週から約2倍となり21.6人となっている。また、7月に入って高齢者施設や学校で数件クラスターが発生しており、浜田市内においても感染が広がっている状況となっている。

**○村武委員**

定点把握の21.6人という数字を聞いてもピンと来ないので、もう少し分かりやすくお願いできるか。

**○健康医療対策課長**

21.6人という数字の考え方だが、定点医療機関というのがあり、市内では5医療機関が定点医療機関になっている。その医療機関が1週間でどれだけ陽性者がいたかを報告することになっている。21.6は、五つの医療機関がこの1週間で108人陽性者が出たと報告し、それを5で割って21.6。1医療機関の1週間の陽性者人数が21.6人いたことになる。この定点把握を見て、地域の発生状況がどれくらいになるのかを確認していくことになっている。

**○村武委員**

浜田市から毎日のように猛暑の注意喚起メールが届くのだが、コロナ感染についても注意喚起メールを配信するなど必要なのではないかと感じているのだが、そこはいかがか。

**○健康医療対策課長**

確かに今月に入って広がっている。コロナがなくなったわけでもないし、広がったということは感染リスクが高い高齢者にとってみれば重症化の恐れもあるので、SNSやホームページや防犯メールにおいて感染予防の基本的な対策、例えば手洗い、換気、手指消毒、場面に応じたマスク着用などをしていただくよう啓発していければ良いと思っている。早目にしなければいけないと思うので、早速対応したい。

**○柳楽委員**

集団接種の実施は予定されているか。

**○新型コロナウイルスワクチン対策室長**

集団接種についてはあえて書いてないが、今のところやる予定はない考えである。国においても来年以降の体制も考えながらで、なるべく集団接種はしない方向で調整してほしいと言われている。ただ、集団接種まではいかないが若者や働いておられる方のために、各医療機関に呼び掛けて土曜や夕方の遅い時間に対応してもらえないかの調査は既にやっており、もしニーズがあれば協力を得ながらやりたい。今までのような集団接種の予定は今のところない。

**○岡本委員**

浜田においては今後、夏祭り、花火、お魚市場で出店を含めてステージがある。地域行事としては盆踊りがある。どうしても人が集まらなければならない状況に対して、

担当課は今後、基本的な感染予防対策を案内する予定があるのか。それともそのまま流すのか。

**○健康医療対策課長**

5類になったのでいろいろな事業を広めていかなければならないので、それをするなどということはできないので、担当課としては感染予防をしっかりしてくれということはいろいろなところで伝えて、やはり感染予防するしか抑える方法はないので、そこはしっかり周知していきたい。

**○岡本委員**

5類になっても感染したら五日間の自宅待機になっていると聞く。子どもがかかった、親は外に勤めている場合、事業所を介していろいろな助成や支援をする制度があったと思うが、5類に変わったらこれはどうなるのか。

**○健康医療対策課長**

支援については5類になって以降、今のところ考えてないので、そこは事業所の考えに任せる。5類になってからは強制力がないので事業所の判断で対応してもらう。市としての何らかの対応は考えてない。

**○小川委員長**

ほかにあるか。

( 「なし」という声あり )

**(3) 放課後児童クラブの民間委託について (弥栄小学校やさか児童クラブ)**

**○小川委員長**

執行部から補足説明はあるか。

**○子ども・子育て支援課長**

このたび市内の児童クラブのうち、浜田地域以外で、唯一直営で行っている弥栄小学校やさか児童クラブについて、プロポーザル方式により委託先事業者を選定し令和6年度より民間委託を実施していく予定としているので報告させていただく。

**○小川委員長**

委員から質疑はあるか。

**○村武委員**

現在浜田市内で児童クラブが20か所だったか。その中で民間委託されているのが現在何か所か確認したい。

**○子ども・子育て支援課長**

現在20か所のうち9か所で民間委託を行っている。

**○村武委員**

1例目の民間委託が始まってからもう何年かたっていると思うが、民間委託を進めていく上でのメリットと課題があれば教えてほしい。

**○子ども・子育て支援課長**

市の方針としても民間委託を進めていくということで、この数年児童クラブを増や



している状況である。近年の委託に特化して話をさせていただくと、原井小学校のふたば学級、国府小学校のかもめ学級、風の子学級を民間委託している。これを受託されたのは、そばに保育所を持っておられたりしたため、おやつの際に保育所手作りのおにぎりを出されたりして、少し特色を出しておられる。また、保育所運営のノウハウもあるため、もともと保育施設に勤務されていた方や教員免許をお持ちの方も配置していただくなど、すごく手厚く児童クラブに関わってもらっている。そういった面でかなり児童にとってより良いクラブになっているのではないかと考えている。

課題についてはそういった状況もあるので、今のところ特段の課題は持ってないが、情報共有は大変重要だと思っているので、そこは今後民間委託を進めた後についても、委託先としっかり情報共有はしていけないといけないと改めて思っている。

#### ○村武委員

以前は児童クラブの支援員が結構不足していると聞いていたのだが、最近はどうのような状況か。

#### ○子ども・子育て支援課長

確かに数年前はそういう状況で、なかなか児童クラブの手が足りないということで子ども・子育て支援課の職員も児童クラブに入って手伝うケースもあった。しかし近年は児童クラブの支援員は充足してきており、常勤職員は埋まっている状況である。

#### ○村武委員

民間委託したことで支援員の待遇も手厚くなったのだろうかと感じるのだが、そういう事情もあるか。

#### ○子ども・子育て支援課長

原井小学校や国府小学校については確かに、市内の児童クラブでもあったので、常勤職員は足りない状況ではあったが、派遣する代替職員はかなりの人数いたので、委託になって職員が充足するという点は、常勤がいなかったという面から見れば確かに良かった点はあるかもしれないが、職員不足は代替で補っていたため、特段影響はなかったと思っている。

今回のやさか児童クラブに関して言うと、同じように直営でやっているがほかのクラブと場所が離れていて、市内の児童クラブと共通の代替職員に行っていただくのが難しいという点もあり、やさか児童クラブ内で支援員を回してもらっていた。代替職員が回せるメリットがやさか児童クラブにはあまりなかったこともあり、このたび民間委託して支援に関しても柔軟性が持てるようになったと思っている。

#### ○柳楽委員

やさか児童クラブが民間委託されたのは別のところだが、民間児童クラブの運営上の問題や、支援員の報酬問題について、少し報酬を上げてもらえないかといった声は上がってないか。

#### ○子ども・子育て支援課長

委託している児童クラブに関して言うと、委託料に関しては市の会計年度任用職員と同等の単価で計算して委託料を渡している。しかしその委託料は児童クラブにとに

かく使ってくれという形で渡しているの、委託先で賃金を設定され、総会なりで賃金が確定している。ほかの余った分は子どもたちに使いたいといった信念を持ったクラブもあるので、そこに関して市が報酬を上げていってということは、各クラブの特色でもあるのでなかなか言いにくいかと思っている。市が出す単価については、市の会計年度任用職員と同等にしてある。

**○村木副委員長**

3月定例会議でも質疑をさせてもらった安全計画について。今の運営形態は直営と民間委託と保護者会の、三つのパターンがあると思っている。質疑の際にも今後何らかのモデルやいろいろなアドバイスをしたが、現在市から各事業者への通知や連絡はどういったところまでいっているか。

**○子ども・子育て支援課長**

安全計画について言うと、安全計画を作らなくてはいけないという情報は流しているが、まだ具体的にひな形が示せていないので、今年度中に何とかその辺も示しながら皆で協力して、できる限り全クラブが策定できるようにしていけたらと思っている。

**○小川委員長**

ほかに質疑はあるか。

( 「なし」という声あり )

**(4) 浜田漁港高度衛生管理型7号荷さばき所への再生可能エネルギー導入事業の進捗状況について**

**○小川委員長**

執行部から補足説明はあるか。

**○カーボンニュートラル推進室長**

今年4月から電力供給を開始し、7号荷さばき所とお魚市場には電力を供給している。同時に第2製氷、第3製氷上にも電力を送る計画だったが、中国電力との調整の遅れから今年秋10月頃になる予定とのことである。

2点目、お魚市場へのEV充電器の設置だが、当初は4月だったが半導体不足の影響で今年夏となっていた。ところが予定していた10キロワットの急速充電器2基が製造中止となり、これに代わるものとして25キロワットの急速充電器1基を設置する方向で進めている。同時に国庫補助申請の関係もあるので、それを見ながら今年の12月頃に設置できる計画で進めている。

**○小川委員長**

委員から質疑はあるか。

**○岡本委員**

先般、建築関係業者の内覧会があった折に、4号荷さばき所はどうするのかという質問もあった。何か今後の計画があれば説明をお願いします。

**○カーボンニュートラル推進室長**

具体的な計画はない。4号も太陽光パネルを設置するのに適した場所なので、本来

なら置きたいのだが、まず一番問題になるのは作った電気をどこが使うかである。原則は自家消費なのだが、大量に電気が余る状態である。今後港の脱炭素化全体を考えながら、もし可能なら周辺施設、あるいは民間施設への電力供給もあり得ると思っ  
ている。それにはいろいろな手続きと、電力網の構築も必要になってくるので、これは  
将来的に、そういうものの実現性が出てきたら、4号にも太陽光パネルを乗せて周辺  
の脱炭素化に貢献できるようなものにしていくという構想はあるが、それに向けて地  
球温暖化対策実行計画の改定等も見据えながら今後の検討課題としたい。

○岡本委員

もう1点気にしているのが、この週末に花火が上がる。風向きにもよるだろうがメ  
ガソーラーに影響はないだろうか。

○カーボンニュートラル推進室長

実はそれも事業者である電力会社も気にしておられ、花火大会の打上げはどこでや  
るか、どういう状況になるのかと、火の粉も掛かるのでそれ相応の対応は考えている  
と聞いている。

○小川委員長

ほかに質疑はあるか。

( 「なし」という声あり )

(5) その他

○小川委員長

執行部からほかに何かあるか。

( 「なし」という声あり )

執行部からの報告事項について、8月17日に開催される全員協議会へ提出し説明す  
べきものを決定したい。執行部の意向を確認したい。

( 「なし」という声あり )

執行部からは報告事項なしでどうかということだが、委員はそれでよろしいか。

( 「異議なし」という声あり )

では報告事項なしということでお願いします。

2 その他

○小川委員長

執行部からその他で何かあるか。

( 「なし」という声あり )

委員から何かあるか。

( 「なし」という声あり )

ではここで執行部は退席されて構わない。

( 執行部退席 )

### (1) 議会広報広聴委員会からのお知らせ

#### ○小川委員長

議会広報広聴委員の村武委員からお知らせをお願いします。

#### ○村武委員

今回第3回はまだ市民一日議会（以下、市民一日議会）を開催する。その周知方法について報告とお願いだが、まず周知方法についてはこちらに書かれているとおりである。はまだ議会だよりへのチラシ折込、これは9月1日発行である。それとスタジオ103で告知動画を放映する。既に収録はしたと聞いている。村木委員と肥後委員とで収録したようである。まだ、いつ放映かは分からない状態だがまたお知らせがあると思う。皆にはチラシとポスターの掲示をお願いしたい。資料2ページ以降に公共施設を上げているが、こちらには議会から既に依頼済みである。それ以外のところ、お近くや知り合いの施設があれば、チラシ30枚とポスター3枚を各議員に渡すので、ぜひ掲示の協力をお願いしたい。

もう1点、市民一日議会に参加いただける方がもし近くにいらっしゃれば、ぜひご案内していただきたい。ただ、応募が10名を超えると抽選になるため、必ず発言できるという確約はできないため、そこは注意していただき、声掛けしてもらいたい。

#### ○小川委員長

今の件について委員から何か質問等があるか。

（ 「なし」という声あり ）

ではそういうことで、ポスターや案内を含めて、協力をよろしくをお願いします。

### (2) 【要望書】物価高騰に対する高齢者福祉・介護施設等への支援について

#### ○小川委員長

要望書の提出が1件あった。申し合わせによって要望書はその写しを関係委員会に配付するのみとなっているので、内容については各自で確認をお願いします。

## 3 行政視察を終えて

### (1) 委員派遣報告書の作成について

#### ○小川委員長

日程的に大変厳しい中、所感や報告書を作成していただき感謝する。本日少し検討しておきたい部分があるため、皆から出してもらった分と岡本委員、村木副委員長とでそれぞれの視察内容についてもまとめてもらっている。今配信しているような中身で提出されている。これに基づいて考察を委員間で議論していきたい。今後福祉環境委員会として大事にしていきたい、あるいは執行部に対して働き掛けたい、我々がこの間取り組んでいるテーマに基づいて視察内容をどのように参考にしながら提言などにまとめていくか、そういった観点から皆から意見があれば出してほしい。最終的には正副委員長でまとめたい。皆からの所感で、強調したい点か、気づいた点があれば意見をいただきたい。豊田市から順に、書いてある中からこれという点を言ってもら

えたら、そこを強調して委員会としての考察にまとめたい。

#### ○柳楽委員

これは座間市にも共通している部分でもあるかと思っているのだが、「市民福祉部長のトップダウンでタスクフォースを設置され、その中で課題検討や提案をされる中で、それが第8次総合計画に反映されたり、福祉部組織改編に影響を与えている」というところは、すごく大事なところかと思っている。上層部だけで考えるのではなく、職員の中でいろいろ検討されるのが鍵なのかと思ったので、その辺りは取り上げていただけると良い。

#### ○小川委員長

自身の書いた内容の中から、ここは肝だと思う点があればそれを発言していただくと、今後のまとめも効率的にできると思うのでお願いしたい。ほかの委員からは、強調したい点はないか。

#### ○岡本委員

報告書を作りながら思ったのは、「豊田市では職員に対して誰かが担うのではなく誰もが担おうという立ち位置で職員に呼び掛けた」という話。やはり制度的にのっているものについては支援ができるが、制度にのらない支援がなかなかできない。豊田市ではこういった複合的な課題を抱える世帯と表現されていたが、いろいろな課題があるがそれが実は支援にはつながらない、これを埋もれさせているという状況に対して何とかしようではないかという形で、福祉制度を強化しようと思われた。いろいろなセクションが一体となっていていろいろな問題にチャレンジすることと併せて、アウトリーチということで、要は地域資源を活用して支援につながらない部分を民間にお願いして支援していただこう、そういうプロジェクトを作ったということで、こういうことも官民挙げて、民間参加については大変参考になった。この辺を強調して提案につなげられれば良い。

#### ○小川委員長

民間参加しているプロジェクトを立ち上げているところもあるが、浜田市の現状と照らし合わせたときに、そういう豊田市の取組はあるがそれを参考にして、例えば浜田の担当部署に対してどのような形で取り組めるか、何らかの具体的な提案というか、なかなか結び付きにくいと感じた。そういった点で確かにアウトリーチの問題だったり、プロジェクトの立ち上げであったり、官民連携が進んでいる先進事例はあるが、そういうことを参考にしながら、ぜひこういったことは浜田市でも取り組むべきではないかという観点があれば、そういうところを考察としてまとめたほうが良いのではないかと思う。もし気づいた点があれば言ってほしい。

#### ○柳楽委員

豊田市の場合は民間主導でとよた多世代参加支援プロジェクトが設立されたが、一気に浜田市でそこまで期待するのはなかなか難しいと思う。ただ、その中でもここと連携すればこの事業がもっと進めやすくなるというような民間連携の仕方は探っていくと思う。本当に行政だけで全てを担おうとするとやはり無理はあるのだろうと思

うので、民間活力の連携というのは今後ますます必要になってくると思うので、まずはどういったところと連携をするのが良いかを検討するところからが始まりかと思う。既に連携されている部分もあると思うので、そういったところが必要かと、今話を伺いながら思った。

#### ○岡本委員

皆が質問された内容を聞いたときに感じたのだが、民間がどのように参画していくかということだろうと思うが、質問では仲間づくりの活動に誰がどのようにコーディネートするのかという我々浜田市議会からの質問に対して、的は外れているかもしれないが、参加支援プロジェクトでは66の事業所が参加して、このコロナ禍においてもオンラインで仲間づくりした。要はいろいろな環境がある中で、常に連絡を取り合うことに、団体もそうだし市も積極的に関わったのが見えるので、その辺を何らかの形で我々浜田市においてはアクション、やってみたらどうかということになるのかと私は思っている。

#### ○村武委員

地域資源を活用という文言に大変引っ掛かった。生活支援コーディネーターというのは地域資源を掘り起こしたり、いろいろなところとつなげたりといった役割があると思うが、その体制が浜田市は今年度から少し変わってきた。私は生活支援コーディネーターの役割が非常に大切なのではないかと感じた。

#### ○岡本委員

個人情報の扱いについてすごく気になったので、その内容についてぶつけたときに、担当課の方は、個人情報は大変難しく、行政が向かって行って掘り起こしはできない中で、いろいろなセクションで相談事があった時点で重層的支援会議を立ち上げて、その問題に対してまず入り口は、個人情報をどうするのか。個人情報に対する理解をしてもらい、署名をもらった上で話を進めるといったことをされていた。それを聞きながら思ったのは、誰かが担うではなく誰もが担うという表現があったように、職員の意識改革があるのだと思った。そうしないと諸問題への支援につながらない部分が表に出てこない。職員の意識というところにそういう文言が来ているのだと思う。やはり目標設定するには大義がいるのだと思うし、そういう形での働き掛けも要るし、個人情報はやはり難しい。その辺は一つずつでも打破して行って、市民のためになることをやっていかないといけない。

#### ○村木副委員長

私も所感に述べたし終わりの挨拶もさせてもらった。座間市にも共通することを言わせてもらったのだが、福祉の課題は地域の課題であるという思いが両市から見えた。その部分が大事。そして「つなぐ」という単語が双方から出たということは、やはり地域づくりとつなぐことの大切さを訴えたい。

なかなか行政では難しい連携、特に庁内連携が、ケース会議だったり、庁内連携会議、ワーキンググループがあったが、このように話をする場面だったり、それをまとめる指揮系統なりコーディネートなり、福祉と言いながらも話をまとめたり話を進め

る技量も、今後は福祉だけでなく学んでいかなければならないのかなと思った。

あとは、スタートが大事でタスクフォースという入り口だったり、気付きという入り口だったり。人と人との関わりをすごく重要視したところだと思った。

### ○川神委員

皆の話を納得して聞いていた。いろいろ課題はあるのだろうが、行政には限界があるので民間の力をどう使うのかといったときに、全国の自治体にはいろいろな悩みがあり、それがどのような形でサービスを充実させるために、どの組織がどう関わるか、全体をどうコーディネートするのか、すごく議論があるのではないかと思う。

豊田市の場合、その中で既にそのサービスがないからあきらめるのではなく、公的サービスという選択肢がない場合に、とよた多世代参加者支援プロジェクトで新しいサービスを開発するのが、非常に特筆すべきことだと思う。このようなプロジェクトでニーズに応えられるようなサービスを開発していく、そういった前向きな取組は、浜田市は非常に苦手なところではないかと思っている。そういった意味で、本当に住民の方々が安心して生活するためのサービスを構築するときに、ないサービスはどうにかして作る、その姿勢を我々も学んでいって。浜田市の場合はそれをどのように形にするのかというところだが、そういった考え方は非常に参考になる。我々も学ばなければいけないと感じている。

### ○小川委員長

皆から意見をいただいて、ポイントがだんだんと絞られてきたように感じる。今出してもらった意見を少しまとめて、委員会の所感にできそうな感じがする。それは正副委員長でまた案文を作り、皆に出して最終的に委員会の所感としたい。

ほかに意見がなければ、豊田市についてはそういう形でまとめさせていただきたい。では暫時休憩する。

[ 11 時 07 分 休憩 ]

[ 11 時 15 分 再開 ]

### ○小川委員長

委員会を再開する。続いて座間市の考察について、豊田市と共通した部分もたくさんあると思うが、断らない相談支援ということで、方向性を分かりやすく、窓口の上にきちんとプレートが掲げられているなどしていた。これについても先ほどと同様に、各委員から所感について話していただければと思う。

### ○柳楽委員

豊田市とほとんど共通するところがあって、やはり座間でもワーキンググループを作る中でいろいろな課題解決に必要なことを検討されているというところだと思う。それには庁内連携や職員自身の意識醸成、地域もそういったことを意識していただくことが必要なのだと感じたし、支援に必要なサービスというか、必要な支援を生み出すという点も共通しているし、民間資源との連携や活用や掘り起こしといったことが

あると思っている。

説明してくださった方の言葉の中で、相談されたら断らないということはもちろんそうなのだが、解決することだけが自分たちの仕事ではなく、困ったときにまずは相談に来られる関係性をつくるのがすごく大事な仕事でもあると言われたのが印象に残っていて、これはいろいろな部署でそうなのだと思うが、やはり相談に来られる関係性や体制が大事だと感じた。

#### ○小川委員長

実際、柳楽委員はそういうグループの設置について検討してほしいと具体的に書かれている。そういうことを通して意識醸成などにつなげたいということなのだろう。確かにできることは限られている。自分たちの力を客観的に見ながら、解決するのが目的なのではなく、できないことは支援をお願いしていく。相談に来られる関係があること自体が、まず支援につながっているといったことを言われていた。大事な部分だと思う。ほかの委員も所感があればお願いします。

#### ○岡本委員

自死の対応について私はすごく興味を持った。そういう方々と話すタイミングがなかなかない中、担当課が行った際の情報や窓口で対応する際の気付きから、その人の悩みを聞いてあげようと、それを相談チャートという形で共有するという。自死は聞き出しづらいし、行政が関われない制度的な支援ができない心の問題なので、そういうところに着目して相談チャートを活用して、共有して救ってほしいということは非常に良い取組だと思う。特に、座間市は4キロ四方の土地で、職員がフットワーク良く個別対応できると言っておられて、浜田市では難しいが気構えはそういう状態であるほうが、いろいろな気付きで人が救えるという思いは持っても良いと思った。

#### ○川神委員

協働のまちづくりもそうだが、浜田の中間支援組織が今後どうあるべきかはずっと頭に残っていて、この件に関しても住民課題解決をどうやっているか。興味があったのは、支援調整会議のグループと包括的支援体制構築ワーキンググループと居住支援協議会という、大きなブロックが三つあり、それぞれが課題解決しながら、なおかつそれぞれは連携もしながら課題解決に当たっている中間支援組織の大きな塊。こういったことは今の浜田ではどうなっているか、相互連携が取れているのか、この課題についてはどこのグループが動くのか、そういうことが浜田は少し見えにくい。中間支援組織のあり方を考えるときには大変参考になると痛感した。

#### ○村木副委員長

座間市については私がまとめさせてもらった。

所感についてはやはり先ほどの豊田市同様に、コンセプトに地域づくりがあるといったところ、そして自立が体系化されている。生活や仕事、お金、住まい、子ども、家庭、健康、それらの困り事についてを体系化して窓口が1本であり、そういった環境をつくっていることから市民もどこに行けば良いかの必要性も分かっているし、役所もPR・周知をしていると改めて思った。それを集約し社会資源を生かしながら事



業化していく流れはすごく参考になった。

また川神委員が言われた、各種連携会議、ケースワーカーのこと。協働のまちづくりでも中間支援組織のことが出ている。浜田市にとって中間支援組織についてはなかなか進みにくい、同時期にこういった形で出るとなると、やはり今後の提言や活動にも影響してくるキーワードかと思った。

○小川委員長

4名からそれぞれ所感に基づいて報告いただいた。ほかに補足や気づいた点があれば意見をお願いします。

○村木副委員長

ほかの機関や団体に助けてもらうためにつなぐ、その大切さ。今までもいっぱい出たが、庁内も庁外も、それぞれの機関との連携がなかなか難しい。そこがうまくできているので、さらに調査する必要がある。連携は2市に共通する大切な要因だと思っている。

○小川委員長

今いただいた意見を柱にしなが、少し文章化してみたい。視察報告書は14日以内なので8月9日までには議長に提出しなければならないので、間に合うようこちらでまとめて、委員会としての所感とさせていただきたい。まとめたらまた皆に見てもらい、補足等があれば行ってもらって提出したい。早急にこちらで検討したい。そのように進めてよろしいか。

( 「異議なし」という声あり )

それでは委員派遣報告書についてはそのように進めていきたい。

(2) 行政視察レポートの作成について

○小川委員長

委員派遣報告書を基にレポートを作成していくが、基本的には8月17日の全員協議会で報告することを前提に準備を進めている。今回は村木副委員長にパワーポイントに仕上げてくださいようをお願いしたい。そのためにも早急に派遣報告書をしっかり作って提出し、それをまとめていただく形にしていきたい。そういう進め方でよいか。

( 「異議なし」という声あり )

副委員長にもかなり負担を掛けるが、日程的にも短いがよろしくをお願いします。

4 【取組課題】就労支援を含めた障がい者支援について

○小川委員長

もう少し補足的にヒアリング等ができればしたらどうかという話もあったが、なかなか日程的にも難しい部分がある。恐らく今から行うなら、準備やまとめもあり、9月定例会議に向けて提言書を作成するのに全部盛り込めるか不安もある。現状においてできそうな雰囲気があればだが。そこをお聞きできればと思う。

○柳楽委員

障がいのある方の保護者や本人の意見を伺う場を設けたいという話で進めていたが、なかなか相手方との日程調整が難航している。昨日も村武委員と話をし、個人的に声を掛けてできるようであればというところなのだが、相手方の日程的にもいろいろあると思うし、こちらの日程もいろいろある。その部分が難航していることを報告させていただく。

**○村木副委員長**

併せて聴覚障がいをお持ちの方との意見交換についても、今は相手方と関わりを持っており、LINEで打合せをしている。せっかくの機会なのでなるべく早く意見交換の場が持てれば良いとは思っている。

**○小川委員長**

日程的に入りそうか。片方では行政視察レポートなどもまとめながら、片方では提言書に向けてこの間に蓄積されたものをまとめていく作業もやる。そこに当事者の要望や意見を盛り込むことも大事だと思うが、それができるか。どういう形態を想定しているかは分からないが、個人的にヒアリングしたものをその中にまとめて、当事者の意見として入れる形を考えておられるなら、日程的にどうかという思いがあるのだが、可能性も含めて難しいなら、可能性がどこまであるのか。やる方向ならやる前提で今後のスケジュールを確認しておきたい。

**○村木副委員長**

個人というわけにいかないと思うが、複数の日程調整をした上で伺えれば良いと思っている。手をつなぐ育成会もやる方向ではあるのか。どうなのか。

**○小川委員長**

多分、日程的には難しいのでは。先ほど伺った中では今月中には相手方の都合が付きにくいとのことなので、そうすると提言書には反映できない。難航しているとの話であれば、今回手をつなぐ育成会からのつながりで意見を伺うことは難しいと判断している。そういうことも含めてスケジュールが可能なら、できればやるに越したことはない。

**○村木副委員長**

そのことを知らず、もう手をつなぐ育成会とやる方向で調整しているとばかり思っていたので申し訳ない。実際に少し話をしているので、もう少し時間をいただくことは可能か。

**○小川委員長**

それは大丈夫だと思う。

**○村木副委員長**

委員にお伝えできるようにしたいと思います。

**○柳楽委員**

今月中に話を伺うのが難しい状況ではあるが、せっかく声掛けさせてもらっているし、やはり今後の参考になると思うので、意見交換は相手方の都合がつく時期に設けさせていただければと思っている。皆に賛同いただければ、時間を設けてほしい。

○小川委員長

それは9月以降ということで良いか。提言とは別に、せっかくアプローチした関係もあるので、当事者の意見を伺える機会があれば皆で参加できればお願いしたいということで理解した。

ほかに意見はないか。

○岡本委員

いろいろなところに呼び掛けなり日程調整されていることについては理解するし、大変だと思うが、どのようなことが提言として言えるのだろうと正直悩んでいる。皆の中にこれというものがあるのか。また次回でも良いのでその辺を自由討議していかないと焦点がぼやける。

我々は福祉の観点で、このたびの行政視察もそうだが、いろいろ勉強はしているし役に立っていると思ってはいるが、提言とは縁遠いところもあるということで、少し自由討議の時間を取ってもらえればと思う。私の中には提言になるようなものがないので、ぜひよろしく願います。

○柳楽委員

大事なことを忘れていたのだが、座間市で職業あっせんの取組をされていて、ここがすごく重要。障がいのある方の就労支援としても、市でその人に合う職業をあっせんできるのはすごい強みだと思った。それが即提言という形にしたら良いのかは私も少し悩ましいところではあると思っているのだが、提言を行うのであれば、こういった項目でやったらどうだろうかというものを、それぞれで出してみたらいかがか。

○小川委員長

それは、まとめる側からすれば大変助かる。ただ、今までほかの委員会等も含めて提言を出されているので、それがどういう組立てになっているか。最低限ここは入れたいという思いを皆がお持ちならそれを含めて箇条書きにして、そこに肉付けしていく形で提言書が作れるのではないかと思う。岡本委員が言われるように自由討議をやったほうが良いと思う。次回の委員会の日程も言っておかなくてはいけないのだが、例えば17日に全員協議会がある。その後くらいに委員会を設定して、それまでにポイントを箇条書きでも良いので皆から、就労支援を含めた障がい者支援という取組課題に対して、どういうことをポイントにまとめたほうが良いか、意見を考えてもらいながら、17日までに出してもらったものに基づいて、できれば皆の都合が付けば17日に委員会を入れさせてもらって、その中で議論してそれを基にたたき台を作って検討する形で進める。一般質問の準備なども重なって大変忙しい時期にはなるが、そういう形で進めようか、どうしようか。暫時休憩とする。

[ 11 時 40 分 休憩 ]

[ 11 時 51 分 再開 ]

○小川委員長

委員会を再開する。これからの取組課題についてのまとめ作業の関係だが、様々意見をいただき、提言をまとめる作業を今後どのように進めていくかについて、当面8月17日に全員協議会があるので、できればこの後に委員会を開催して、自由討議の中でこれまで取り組んできた課題について意見調整して、何らかのまとめ作業を行っていく。その方向性についての相談をその際にしたいと思う。8月17日の全員協議会終了後という前提だが、一応予定では13時30分から委員会を入れるということで皆の了解がいただければそのようにしたいと思う。よろしいか。

( 「異議なし」という声あり )

では17日木曜日の13時30分ということで予定させていただく。それまでに約2年間にわたって取り組んできた就労支援を含めた障がい者支援について、何が大事だったか、あるいは市にどういう形で提言なり提案なりしていきたいかを一度振り返っていただき、皆がポイントと思っているところを箇条書きでも良いのでまとめてもらい、それについて皆で自由討議を行っていきたい。このことについて、できれば8月14日月曜日の正午を締切りとして、それぞれまとめたものを事務局に送ってほしい。それをまとめてもらったものをもとに、17日13時30分からの福祉環境委員会にて議論していきたい。それによって提言の骨子ができると思う。これからヒアリングできる部分も含めることがあるかもしれないし、当初目標としていた9月定例会議に向けてというには少しずれ込む部分があるかもしれないが、より良い内容の報告書が作成できるよう、皆の力を借りたい。ご協力をお願いします。今後のスケジュールはそのように進めてよろしいか。

( 「異議なし」という声あり )

ではそういうことで協力をお願いします。以上をもって福祉環境委員会を終了する。

[ 11 時 55 分 閉議 ]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

福祉環境委員会委員長 小川 稔 宏